気象庁 仙台管区気象台

気象庁マスコットキャラクター
「はれるん」

大学生向け

生活を、命を、最前線で守り抜く

気象庁は、気象・海洋・地震・火山活動等の自然現象を常に監視して、これら自然現象の変化等に応じて防災情報などを発表し、災害の防止・軽減、国民生活の向上、交通安全の確保、産業の発展などに貢献しています。世界トップレベルの科学技術を駆使して人の命や暮らしを守る仕事です。

●予報業務（警報・注意報、天気予報の発表など）

気象台では、短時間の強い雨、竜巻・突風、雷など急な天候の変化に対して、適切な防災気象情報を発表するために、刻々と変化する気象状況を24時間365日、常に監視しています。

予報官は、世界中から集められた観測データや、スーパーコンピュータによる数値予報の資料などを元にして、日々の天気予報や警報・注意報などの防災気象情報を作成し、発表しています。

数値予報による予測精度は年々進歩していますが、最後に決断を下すのは長年経験を積んだ気象台の予報官です。

防災気象情報は、国の防災機関や自治体、報道機関やインターネットなどにより地域住民に伝えられ、災害の防止・軽減に役立てられています。

また、気象観測や気象予報等のデータは、民間事業者にも提供され、さまざまな社会サービスに活用されることで、私たちの日々の生活のいろいろな場面で役立てられています。

24時間365日、気象の監視・予報作業を行っています

●地球環境・海洋業務（温暖化予測情報の発表など）

気温や降水量、真夏日の日数などの長期変化や、海面水温、海面水位に関する最新の状況等から気候変動について把握しています。

また、気象庁の所有する検潮所、津波観測施設の維持管理、データの監視等を行っています。異常潮位発生時などは、臨時的に情報を発表します。

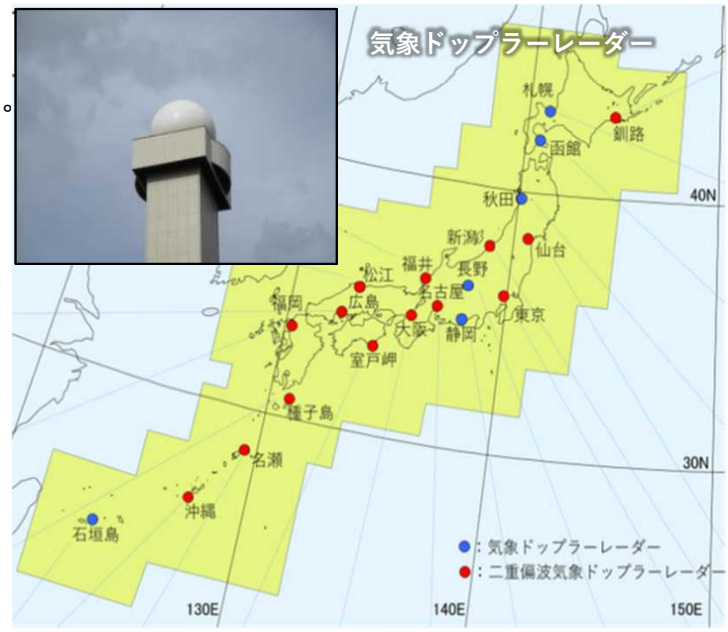
環境観測の最前線南鳥島　海洋気象観測船による大気と海洋の観測

●観測業務（レーダー、アメダス等を用いた気象観測データの収集・監視、観測機器の保守など）

各地の気象台に地上や高層の気象観測装置を配置するとともに、全国約1300か所に自動観測による気象観測装置（アメダス）を配置して地点毎に気象観測を行っています。

また、雨雲を監視する気象ドップラーレーダーや、上空の風の状況を把握するウインドプロファイラ、ひまわりによる気象衛星観測などリモートセンシングによる観測によって、時間的・空間的にきめ細かな観測ネットワークを構築し、大雨などの顕著な現象をはじめ総合的な気象現象の監視を行っています。

気象台では、これらの観測網の維持管理や、観測データの品質管理等を行い、安定的で高品質なデータの取得に寄与しています。



全国20か所の気象ドップラーレーダーでは、降水の強さと降水域内の風の三次元分布を観測しており、東北地方では仙台と秋田にレーダーが設置されています。

アメダス
（雨量・気温・湿度等を観測）

高層気象観測
（上空の気温や湿度等を観測）

●地震・津波・火山業務（地震・津波・火山現象の監視、津波警報や噴火警報等の情報発表など）

地震：地震発生後、速やかに収集したデータを用いて、速やかに情報発表（緊急地震速報、震度速報、震源に関する情報、長周期地震動に関する観測情報、遠地地震に関する情報etc…）をしています。

津波：津波災害が予想される場合、地震発生から約3分を目標に、大津波警報（特別警報の位置付）、津波警報、津波注意報を津波予報区単位で発表しています。

※地震津波関係の情報発表は気象庁本庁および大阪管区気象台で実施しており、仙台管区気象台ではその発表情報の解説や地震計などの観測網の整備等を主に行っています。

火山：札幌、仙台、東京、福岡に設置している火山監視・警報センターで全国の活火山を24時間体制で監視しています。また、定期・随時に火山観測機動班を派遣して、臨機応変な現地調査を実施しています。

火山現地調査では、熱観測や火山ガス観測などの陸上からの観測に加えて、関係機関の協力によりヘリコプターやドローンなどによる上空からの観測も行っています。

こうした現地調査に加え、日々の火山活動を24時間体制で監視し、火山活動の高まりなどが見られた場合には、噴火警報等を速やかに発表します。

赤外熱映像装置で
地表面温度分布を観測

噴気の温度を測定

●地域の防災活動を支援する取組（自治体への防災支援、災害時における気象解説活動など）

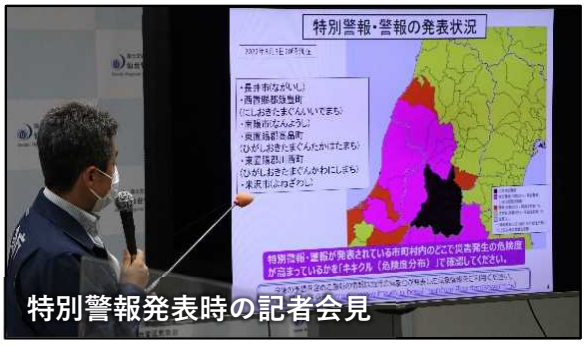
各地の気象台では、自治体や関係機関と連携し、地域の防災力向上のための取組に日頃から力を入れて取り組んでいます。例えば、平時にはワークショップや住民向けの気象講演会の開催、学校等への出前講座の実施など、積極的に防災知識の普及啓発活動を行い、地域の防災力向上に努めています。

また、大雨時や地震発生時等には、緊急記者会見を開催して災害への注意警戒を報道機関等を通じて広く呼びかけるとともに、気象台から各市町村に対してホットラインによって今後の見通し等を解説し、市町村が行う避難情報の発令判断等の防災対策を支援しています。

さらに顕著な災害が発生した地域には、JETT（気象庁防災対応支援チーム）を県や市町村の災害対策本部へ派遣し、現地で気象解説等を行うことで防災活動を強力に支援しています。

自治体防災担当職員とのワークショップ

JETTによる県庁職員への気象解説



特別警報発表時の記者会見

採用されると…

技術系区分で採用された場合は、全国の気象官署に配属されます。東北地方の官署は仙台市、青森市、盛岡市、秋田市、山形市、福島市にあります。本人の希望も考慮して、気象庁本庁（東京）や全国の気象官署への異動もあります。

気象庁では幅広い業務の中で、気象や地震などそれぞれの専門分野でスペシャリストとして活躍する職員、多くの業務に携わりながら幅広く活躍する職員が全国各地で勤務しています。

行政区分で採用された場合は、主に総務、人事、会計、地域防災などの業務を行います。

また、教養区分で採用された場合は、東北地方の官署に配属され地域防災などの業務を行います。

採用区分

国家公務員採用一般職試験（大卒程度）の場合、物理、デジタル・電気・電子、化学、土木、農学、農業農村工学、林学、行政、教養から採用しています。

●問い合わせ先

仙台管区気象台 総務部 総務課 人事係
TEL 022-297-8115

仙台管区気象台HP
（採用情報）

業務紹介動画👆👆

気象庁HP
（採用情報）